

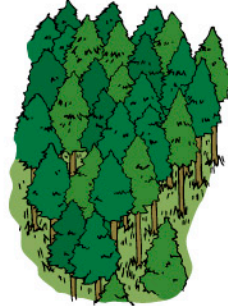
地球温暖化防止のために 「元気な森づくり」を

問 平成20年4月から「とちぎの元気な森づくり県民税」が導入されている。

森林には温暖化防止を始め多くの役割があり、自然環境体験等は欠かせないものである。そこで次の2点を伺う。

①県からの交付金は、具体的に、どこにどのように使われたのか。
②間伐材の有効活用に向けて、間伐材のチップを活用した、林道等整備事業を導入してはどうか。また、産官学連携の取り組みはできないか見解を伺う。

答 ①20年度は、鶴里山林約7haを整備したほか、小学校31校への樹木名板の設置や木工教室などを実施した。また、間伐材から作成した机・椅子64セットを県から譲与され、



小学校12校に配置した。21年度は、冒険活動センターの森林や柳田樹林地の整備など約34haの実施を予定しているほか、冒険活動教室や木工教室などを実施する予定である。

②間伐材の有効利用は、重要な取り組みであり、市内の間伐材は、建築資材等に利用されているが、今後、提案の林道整備などを含め、研究していく。

また、森林関係全般にわたる事項の検討のため国、県、大学、森林関係者などで「宇都宮市森林林業振興協議会」を設置しており、間伐材の有効利用についても、その意見を森林施策に反映させていく。

在宅介護サービス 利用状況などの現状は

問 在宅介護の場合、必要な時に必要なサービスが受けられないとの声を聞くが、次の3点を伺う。

①本市では、24時間安心して生活ができるよう、定期巡回と通報による夜間専用の訪問介護を行う「夜間対応型訪問介護」を実施しているが、利用状況と課題、夜間相談体制の拡充等在宅介護の支援への取り組みを伺う。

②在宅で介護する家族介護者への支援は。
③介護予防教室への参加人数、現状と課題は。また課題解決に向けた取り組みを伺う。

答 ①「夜間対応型訪問介護」を実施する事業所については、平成20年度に2事業所が開設され、昨年11月の利用状況は登録者65人、利用者10人となっている。開始1年の事

業であり、今後も事業の周知に努めていく。
②15年度から、介護者の負担軽減を図ることを目的に、「家族介護教室」を、地域コミュニティセンターなど身近な場所で開催し、昨年9月までに延べ約2千人が参加した。今後とも参加者ニーズの把握に努めていく。
③介護予防教室は、18年度から、小学校区単位に実施し、昨年9月末までに延べ約3万3千人が参加した。今後さらに創意工夫し介護予防教室の充実に努めていく。



自校炊飯で 炊き立てのご飯を子どもたちに

問 本市では「お弁当の日」など、食を通じた教育に積極的に取り組んでおり、米飯給食も週3回に加え、さらに年間10回実施している。

しかし、自分の学校で炊飯できる学校は一部にとどまっている。

子どもたちにおいていお米を食べさせるため、また、地産地消の観点、さらには身近な農業への関わりなどの観点から、自校炊飯方式に切り替えるべきと考えるが、なにか良い方法ははないか伺う。

答 米飯給食は、米飯に関する望ましい食習慣を身に付けるために実施しており、自校炊飯は、食育の観点から、大変有意義であると認識している。現在、使用している「業務用ガス炊飯器」は、給食室の増築等が必要で



▲城山西小学校の米飯給食

あったことから導入が進まなかったが、今年度改めて、さまざまな調査の中で、「業務用電気炊飯器」が、学校給食にも活用できることが確認でき、自校炊飯を実施していない76校中73校で、実施が可能になる。

ランニングコストもガス式と比べて、安価であり、災害時の炊き出しにも利用できるが、導入には既存の電気設備では容量が不足することなどの課題もあることから、これらの課題を解決しながら計画的な導入に努める。